

令和7年度 かほく市立宇ノ気中学校 学校評価 <中間評価>

令和7年9月

◎1回答…より肯定的回答 ○1+2回答…肯定的回答 ※検証・改善策は分掌部会ごとに検討済み

重点事項	具体的な取組	現 状	評 価 の 観 点 【生徒、保護者、教職員アンケート】	達成度判断基準 (1回答・1+2回答)	判 定		アンケート結果より (R7. 7実施)	
					1	%		
1 学力向上に向けた計画的実践	(1)学力向上に向けた授業改善等	「単元を貫く問い合わせせる授業」を重点目標として、授業力の向上に取り組んでいる。	【生】授業がわかりやすい。 【保】学校は、分かりやすい授業や学力向上(学習内容の定着)に努めている。 【教】活用力(思考力・判断力・表現力)を高める指導を行っている。	A 40%・85%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	A	48	A 97	○年度当初に研究の方向性や共通実践等について校内研修を実施したこと、研究の進め方など、研究の重点を全教科でそろえ意識が高まった。 ▼保護者に対して本校の学力向上に対する実践の様子を更に発信していく。
					D	26	B 84	
	(2)GIGAスクール構想の推進	基礎・基本の定着、自分の考えを持つ時間の確保、自分の考えをOUTPUTする場の設定等、教師側の支援や手立ての工夫を進める。	【生】授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。(R7県目標値:95%) 【生】授業では、他者と協力して問題解決している。<カリ・マネの柱>	A 50%・95%以上 B 40%・85%以上 C 30%・75%以上 D 30%・75%未満	B	41	B 92	○2、3年生の肯定回答は高く、取組の振り返りから、他者とともに学ぶ楽しさを答える生徒が多くいる。 ▼1年生の肯定回答が他学年に比べて低く、他者との関わり方、学習規律に困難を感じる生徒が多いと感じており、自分の考えを「書く・話す」ことで相手に伝えたくなるような場を工夫していきたい。
					A	51	A 95	
	(3)学力向上ロードマップに基づく取組の推進	授業のねらいを達成させるため、効果的に活用されているのかの検証を進めていく。	【教】授業中にICTを活用して指導することができた。(R7県目標値:100%)	A 40%・70%以上 B 30%・60%以上 C 20%・50%以上 D 20%・50%未満	B	32	A 91	○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる為の効果的なツールとしてICT機器を活用していくことが大切であり、今後も検証が必要である。
					D	23	A 95	
		タイムマネジメントに対する意識は定着しているが、質の高いまとめが課題であり、個人が授業を振り返る機会を設定したい。	【教】学力調査の結果を分析し、「学力向上プラン」に基づく指導を行っている。 【教】「まとめ・ふりかえり」、「適用・活用」を意識した授業実践に努めている。	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	D	23	A 91	○昨年、一昨年と大きな変化は見られない。1学期において相互授業参観を実施し、他教科を参観することによって、授業づくりや授業の流れの意識は高まった。
					C	29	C 76	▼昨年、一昨年と大きな変化は見られない。生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるよう、学習計画の立て方を学級及び各教科で指導していきたい。

令和7年度 かほく市立宇ノ気中学校 学校評価 <中間評価>

令和7年9月

◎1回答…より肯定的回答 ○1+2回答…肯定的回答 ※検証・改善策等は分掌部会ごとに検討済み

重点事項	具体的な取組	現 状	評 価 の 観 点 【生徒、保護者、教職員アンケート】	達成度判断基準 (1回答・1+2回答)	判 定		アンケート結果より (R7. 7実施)	
					1	%		
2 生徒指導の充実	(1)積極的な生徒指導の推進(認めて、褒めて、伸ばす)	引き続き、自己肯定感が高まる積極的な生徒指導を進めていきたい。	【生】自分には、よいところがあると思う。(R7県目標値:80%)	A 40%・85%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	A	44	A 90	○R6と比較して2ポイント上昇した。生徒が主体的に活動に取り組むことで充実感を得られ、自己有用感を持つことができおり、成果を感じることができる。
		毎月の定期相談やいじめ調査、i-checkなどの取組を分析し、生徒理解に努める。「ソレイユ」の効果的な活用を全教職員で共通理解し運用していく。	【生】学校へ行くのが楽しい。 【生】いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	A 60%・95%以上 B 50%・90%以上 C 40%・85%以上 D 40%・85%未満	B	51	A 96	○「学校へ行くことが楽しい」と感じている生徒は多く、例年高い数値となっている。教師がこれまで以上に関わり、安全・安心な風土を作り上げていくことが大切である。
		学校の取組を発信することも大切だが、何事においても迅速・丁寧な対応を心がけていく。	【保】学校は「学校における、いじめの未然防止や早期発見のための取組」を発信している。	A 40%・85%以上 B 30%・80%以上 C 20%・70%以上 D 20%・70%未満	B	30	C 73	R6と比較して2ポイント上昇した。引き続き、保護者や地域に向けて、様々な取組を発信していくたい。
	(3)基本的生活習慣を高める指導の徹底	学校・保護者・地域が連携し、「子どもをより良く育てる」を合い言葉に、連携していきたい。	【生】学校でしっかりとあいさつや会釈ができる。 【保】わが子は家庭であいさつをしている。 【教】生徒は、学校でしっかりとあいさつや会釈をしている。	A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	A	63	A 96	○「あいさつ日本一」の学校づくりに向けて取組を更に推進させていきたい。生徒会の取組として定着を図っていきたいと考えている。
		新規項目とした教師の結果が高い数値となっている。様々な取組を通して生徒理解に努め、相談したら先生は助けてくれるという信頼関係を構築していきたい。	【生】自分が困ったときに、悩みを聞いてくれたり、相談したりできる先生がいる。 【保】学校は生徒理解に努め、一人一人に応じたきめ細かな指導に努めている。 【教】生徒の努力したことを褒めたり、認めたりしている	A 40%・90%以上 B 35%・85%以上 C 30%・80%以上 D 30%・80%未満	A	40	D 79	▼R6と比較して生徒の回答は6ポイント下降している。様々な取組を通して生徒理解に努め、相談したら先生は助けてくれるという信頼関係を構築していきたい。

令和7年度 かほく市立宇ノ気中学校 学校評価 <中間評価>

令和7年9月

◎1回答…より肯定的回答 ○1+2回答…肯定的回答 ※検証・改善策は分掌部会ごとに検討済み

重点事項	具体的な取組	現 状	評 価 の 観 点 【 生徒、保護者、教職員アンケート】	達成度判断基準 (1回答・1+2回答)	判 定		アンケート結果より (R7. 7実施)	
					1	%		
3 信頼される学校づくり	(1)コミュニティ・スクールの推進	地域人材の教育効果は大きいと感じており、本校のめざす生徒像に繋がる取組を実施したい。	【教】学校は、地域の外部人材等を積極的に活用している。	A 50%・80%以上 B 40%・70%以上 C 30%・60%以上 D 30%・60%未満	A	59	A 91	○昨年度に引き続き、地域人材の活用を進めており、生徒への教育効果は大きいと感じている。後期は、キャリア教育を中心として、地域人材を活用し、より効果的な取組や実践を行っていきたい
	(2)積極的な情報発信と学校公開	引き続き、ホームページや学校・学年などで学校の指導方針や生徒の様子を発信していく。	【保】学校だよりや学年だより、ホームページ等で学校の指導方針や子どもたちの様子等を知ることができる。	A 40%・90%以上 B 35%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	A	44	A 93	○肯定回答率は、例年高い水準となっている。今後も、コドモンや学校ホームページを通して、分かりやすい情報発信に取り組んでいきたい。 ※ホームページカウント数： 1日約1500～1700アクセス
	(3)小中・中連携の推進	業務の負担感を考慮し、小中連携の時期や内容の見直しを図っていく。	【教】小中連携において、教職員間、児童生徒間の交流を通して、相互理解を深めている。	A 60%・90%以上 B 50%・80%以上 C 40%・70%以上 D 40%・70%未満	D	23	A 95	○R6と比較して15P上昇した。昨年度の課題を受けて「今日的課題」を夏の研修会の内容として、学ぶことができた。
4 教員の人材育成	(1)若プロの計画的実践	学年会を中心とした若プロを実施し、若手のニーズに基づいた、校内研修を行っていく。	【教】学年会を中心とした若プロにおいて、職員全体で若手を育てようとしている。	A 60%・80%以上 B 50%・70%以上 C 40%・60%以上 D 40%・60%未満	A	64	A 95	○R6と比較して10ポイント上昇した。学年会のチーム力が少しづつ高まり、支え合いの文化が醸成されている傾向にある。そのことが徐々に学校全体に波及しているのではないかと考える。
5 教職員多忙化改善に向けた取組の推進	(1)業務の効率化を図るための取組の推進	昨年度の後期より部活動の休業を1日減じたことにより時間外勤務時間は減少した。業務改善意識が低下しないよう、引き続き取組を進めて行きたい。	【教】自己の役割が明確で、職務を円滑に遂行しようとしている。 【教】効率的・効果的な取組がなされるような意識を持った働き方(働き方改革)を行っている。	A 50%・90%以上 B 40%・80%以上 C 30%・70%以上 D 30%・70%未満	B	41	A 100	○各学年に所属する若手教員を校務分掌の中心となる係任せたり、学年の取組などの実行役を担うことで、実践経験を積極的に積み上げていくような環境づくりが、働き方改革に繋がっている。